

教育大綱年度内改定へ

池田町 検討委が初会合

教員の厳しい指導叱責などを苦に昨年3月に男子中学生が自殺した池田町で27日、教育大綱改定検討委員会の初会合が開かれた。元池田中学校長の関孝夫さん(越前市)を委員長に選任。保護者や町民、学識経験者の意見を取り入れ、年度内の改定を目指す。

検討委は池田小、池田中のPTA役員、民生児童委員、清水誠・池田中学校長ら10人で構成。初会合には杉本博文町

長と内藤徳博教育長、溝口淳副町長も出席した。

冒頭、内藤教育長が「小さなまち、学校の利点が生かされなかった」と反省を述べた上で「町の特性にあった教育、個に応じた教育を協議し、子どもたちが新しい時代を自分の力で生き抜いていけるよう地域社会が応援することが大切」とあいさつした。会議は非公開で、池田小、池田中の保護者を対象に6月

に行ったアンケート結果を基に意見交換したという。学校への意見や家庭内の様子などを尋ねる内容で、中には「教職員の言葉で傷つくことがあった」「子どもの気持ちを理解して」とする記述もあった。

終了後、取材に応じた内藤教育長は、会議では「(小規模な学校では)良好な人間関係を築ける」「町の自然や施設を活用したらいい」といった前向きな意見の一方、「学年を越えたつながりが薄れてきたように感じる」などの指摘もあったと話した。

委員長に就任した関さんは2013年3月まで池田中の校長を務めた。検討委員会は年度末までに3、4回開き、次回は10、11月の予定。

(中坪佑香)